

a 学校教育目標	心豊かに かしくく たくましく生きる児童の育成 —認め合い支え合い 深い学びを求めて 最後まで挑戦する児童—	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 【ビジョン】(自校の将来像)	志を抱き、自ら考え、行動できる児童の育成 生き生きと活気あふれる学校
----------	--	----------------------	----------------------------------	---------------------------------------

評価計画				自己評価						改善方針		学校関係者評価		
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価			m コメント
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力	基礎・基本の学力の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図る。	基礎・基本の学力の定着 ・帯タイムや家庭学習による繰り返し学習の徹底 ・漢字検定・計算検定テスト(学期毎)の取組	・学力調査NTRで目標値の達成	前年度平均よりアップ	全国国:64 算:61 NRT 国:48.7 算:56.2	全国国:64 算:61 NRT 国:48.7 算:56.2	88	A	・全国学力・学習状況調査の結果、国語・算数ともに全国平均・前年度比を下回っている。 ・NTRの結果、全体としては前年度を0.6ポイント上回っている。特に、算数科では昨年度も受検している全ての学年で数値が向上している。 ・単元テストの結果、全体の約9割の児童が、「思考・判断・表現」の平均点が50点以上である。また、1～3年生については、全員が平均60点を上回っている。 ・漢字計算検定の結果、合格(90点以上)になった児童は漢字48人計算45人であった。NRT1・2レベルの児童における当初比120%以上の人数は漢字12名中11名、計算8名中7名(各1名は未実施)であった。 ・児童アンケートの結果、「授業では、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いています。」の肯定的評価は91%であり、前期より、3ポイント低下している。また、「今日の学習のまとめを自分の言葉で書こう」として、学習の振り返りを書いたりしています。Jの肯定的評価は83%で、前期より4ポイント低下しているが、目標値は達成している。	・全国学力・学習状況調査の結果、2学期の「百マス作文」の取組成果を基に、アシストシートを活用して書く力を育てていく。 ・ノート指導の充実とその指示や、「問い」を設定した授業の板書を保存、交流することで、授業改善に取り組む。 ・3学期の「くんぐんタイム」では、アシストシートに取り組むことで、多様な出題パターンに慣れるとともに、一人一人の苦手な部分を克服していく。 ・漢字計算検定を引き続き行い全ての児童が漢字や計算の技能を習得し学習の土台作りを目指す。 ・NTRの評定1及び2の児童を抽出し、漢字や計算技能の伸びを見える化し、継続的に支援していく。	○		○学校独自に「漢字検定」「計算検定」の取組を行い、数値化して評価していることは、すばらしい。低学力層も抽出して取組が行われている。今後とも、基礎学力の定着に向けて、しっかりと鍛え上げていきたい。	
			・算数科の単元テスト「思考・判断・表現」で平均50点以下 0人	0人	6人	6人	89	B	・児童アンケートの結果、「授業では、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いています。」の肯定的評価は91%であり、前期より、3ポイント低下している。また、「今日の学習のまとめを自分の言葉で書こう」として、学習の振り返りを書いたりしています。Jの肯定的評価は83%で、前期より4ポイント低下しているが、目標値は達成している。	・問題の解き方や考え方がわかるノートづくりを中心に、児童が主体的に学ぶ授業改善に引き続き取り組む。振り返りの場面では、「分かったこと」だけでなく、「分からなかったこと」も書けるように指導し、学習成果を自己評価できる力をつけていく。			○中学校に向け、自主的に自ら求めて学習を行うこと、特に、高学年の児童には、家庭での学習習慣の定着や効果的な学習方法の習得に向けた指導をお願いしたい。	
			・漢字検定・計算検定テスト(学期毎)の取組	100%	漢:81.5 計:74.1	漢:89 計:83	89	B	・児童アンケートの結果、「授業では、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いています。」の肯定的評価は91%であり、前期より、3ポイント低下している。また、「今日の学習のまとめを自分の言葉で書こう」として、学習の振り返りを書いたりしています。Jの肯定的評価は83%で、前期より4ポイント低下しているが、目標値は達成している。	・「ありがたいの木」「ぬたっこチャレンジ」の平均達成率は92%で目標を達成できているので、この3点については取り組みを継続し自己肯定感を高めていく。 ・「ハイパーQ-U」の結果分析を行い、集団作り等の取組に生かしていく。月曜日の朝学習は、学級ソーシャルスキルを取り入れ、自己有用感や集団の意識を向上させていく。	○		○「ありがたいの木」や学級ソーシャルスキルトレーニング等を積極的に取り入れることが、集団づくりや自己有用感の育成につながっており、すばらしい。 ○生活チェック週間の取組、その数値化と評価はすばらしい。この結果を各家庭・保護者に還元・啓発すること、そして家庭での実践に繋げていくことが大切で、そのための具体的な方策を展開していって下さい。	
豊かな心・健やかな体	認め合い支え合い、自ら伸びる、ともに伸びる児童を育成する。	自分たちで決めた目標の達成に向けて粘り強く取り組むことを通じて、自己有用感や集団の意識を向上させる。 ・気持ちのよいあいさつ ・ありがたいの木 ・ぬたっこチャレンジ ・生活チェック ・体力づくり	自己肯定感の割合	90%	79%	79%	98	B	・児童アンケートの結果、「挨拶をしている」の肯定的評価は98%であった。 ・「感謝の気持ちを持っている」は100%、「学級で決めた目標に取り組んでいる」は96%であり、目標を達成することができた。 ・「自分にはよいところや得意なことがある」と自覚する自己肯定感の割合は79%であり、前期の結果と変化がなかった。しかし、「ありがたいの木の取組への肯定的評価は89%、「感謝の気持ちを持っている」が100%で肯定的評価の割合が上昇していることから、引き続き取組を継続していくことで、自己有用感や集団の意識を向上させていくことができると考える。	・体力テストについては、引き続き「ボール投げ」「反復横跳び」で県平均以上の達成率に育ちつつある。目標を達成できなかったが、県平均並みである。「意識調査」については「運動やスポーツをすることが好き」に対する肯定的評価が92%と高い結果が得られた。 ・1学期に比べて、反復横跳びの記録が向上した児童の割合は、70%、ボール投げの記録が向上した児童の割合は59%であった。	○			
			体力テストで県平均を上回った児童の割合(ボール投げ・反復横跳び)	80%	80%	79%	98	B	・体力テストについては、「ボール投げ」と「反復横跳び」で県平均を上回った児童の割合は、79%で目標を達成できなかったが、県平均並みである。「意識調査」については「運動やスポーツをすることが好き」に対する肯定的評価が92%と高い結果が得られた。 ・1学期に比べて、反復横跳びの記録が向上した児童の割合は、70%、ボール投げの記録が向上した児童の割合は59%であった。	・体力テストについては、引き続き「ボール投げ」「反復横跳び」で県平均以上の達成率に育ちつつある。目標を達成できなかったが、県平均並みである。「意識調査」については「運動やスポーツをすることが好き」に対する肯定的評価が92%と高い結果が得られた。 ・1学期に比べて、反復横跳びの記録が向上した児童の割合は、70%、ボール投げの記録が向上した児童の割合は59%であった。				
			・体力テストで県平均を上回った児童の割合(ボール投げ・反復横跳び)	80%	80%	79%	98	B	・体力テストについては、「ボール投げ」と「反復横跳び」で県平均を上回った児童の割合は、79%で目標を達成できなかったが、県平均並みである。「意識調査」については「運動やスポーツをすることが好き」に対する肯定的評価が92%と高い結果が得られた。 ・1学期に比べて、反復横跳びの記録が向上した児童の割合は、70%、ボール投げの記録が向上した児童の割合は59%であった。	・体力テストについては、引き続き「ボール投げ」「反復横跳び」で県平均以上の達成率に育ちつつある。目標を達成できなかったが、県平均並みである。「意識調査」については「運動やスポーツをすることが好き」に対する肯定的評価が92%と高い結果が得られた。 ・1学期に比べて、反復横跳びの記録が向上した児童の割合は、70%、ボール投げの記録が向上した児童の割合は59%であった。				
信頼される学校	地域に開かれた信頼される学校の構築を図る。	働き方改革の推進 校務支援システム等、ICT機器を活用し、 ・スケジュール管理の徹底を図る。 ・各部、各委員会の組織的な取組を進める。 ・PDCAサイクルを充実させる。 積極的な地域教材や人材の活用 ・学校行事や教科等で地域人材や地域教材を活用した活動や学習を進める。 積極的な情報発信 ・ICT機器を活用して、学校だより、HP、学級だより等で積極的に学校や学級の様子を発信する。	・定時退校日の完全実施。	100%	100%	100%	100%	A	・後期も同様に、毎週水曜日を定時退校日と設定し勤務時刻終了後30分以内の退勤を目標として取り組んだ結果、達成率は100%であった。 ・勤務時間外の上限45時間を超えている人数は各月とも0人で、目標を達成することができた。	・水曜日が定時退校の曜日であることが職員の中に定着し、優先順位や時間配分を考えながら作業を進めることができるようになった。引き続き、職員同士で声をかけ合いながら仕事の分担に偏りがないように気をつける。 ・学期初め、学期末、年度末、成績処理等の繁忙期には早帰りを設定し、職員の研修の時間を確保する。また、共通した内容の作業については、同じ時間で作業ができるように設定し、お互いに進捗状況を確認しながら作業を進めていく。 ・地域学習や地域の方と一緒に活動した内容については、すぐるや学校だよりを通して、適宜発信し、活動の目的や児童の学習の様子を知らせていく。	○		○働き方に対する教職員の意識も醸成されてきており、在校時間の縮減にもつながっている。学校経営のすばらしさの現れだと思えます。	
			・年間を通して勤務時間外の上限時間を超えない。	100%	100%	100%	100%	A	・後期も同様に、毎週水曜日を定時退校日と設定し勤務時刻終了後30分以内の退勤を目標として取り組んだ結果、達成率は100%であった。 ・勤務時間外の上限45時間を超えている人数は各月とも0人で、目標を達成することができた。	・水曜日が定時退校の曜日であることが職員の中に定着し、優先順位や時間配分を考えながら作業を進めることができるようになった。引き続き、職員同士で声をかけ合いながら仕事の分担に偏りがないように気をつける。 ・学期初め、学期末、年度末、成績処理等の繁忙期には早帰りを設定し、職員の研修の時間を確保する。また、共通した内容の作業については、同じ時間で作業ができるように設定し、お互いに進捗状況を確認しながら作業を進めていく。 ・地域学習や地域の方と一緒に活動した内容については、すぐるや学校だよりを通して、適宜発信し、活動の目的や児童の学習の様子を知らせていく。				
			・保護者や地域、関係者の学校理解の肯定的評価割合。 地域アンケート 保護者アンケート (7月・12月)	90%以上	80% 87%	84% 93%	98%	B	・すぐるでの学級だよりは月2回、学校だよりは月1回以上配信することができ、学校での様子を保護者に伝えることができた。 ・「学校だより、学級だより、すぐる等で子どもや学校、学級の様子が伝わった。」の肯定的評価は93%で前期より6ポイント上昇した。 ・保護者アンケート「わが子は地域のことを学習したり、地域の方と一緒に活動したりするのを楽しんでいる」の肯定的評価は84%で4ポイント上昇した。	・全職員で、各学級の学級だよりを見合う機会を持ち、内容や配信回数について調整をしていく。 ・生活科、総合的な学習のカリキュラムを見直し、横断的な学習を展開できるようにする。				

【:自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。